

草津市立渋川小学校

活動テーマ

地域の人々とともに『渋川ESDミュージアム』

実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、他学年の展示を見合ったり地域の人々に発信したりしている。

1 本校の環境教育について

(1) 地域協働で進める環境教育

本校の環境教育の研究主題は、「渋川を愛し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成」である。環境教育で、子どもたちは地域の身近な自然やくらし、文化について学んでいる。この学びを通して、人と人とのつながりを創出し、ふるさとへの愛着や誇りを深めることをねらいとしてきた。本校の環境教育のプログラムは、本校教員だけではなく、保護者、地域、行政、企業が参加して、検討を重ねながら作成・実践してきたものである。

(2) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めていることである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。

(3) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするかという課題のもと、授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で世代を越えた地域内外の人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなく、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたりして、行動に移したりする態度の育成を目指している。

2 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

5年生は、びわ湖フローティングスクールを核に、多方面で活躍されている方々を講師に招き「びわ湖環境学習」を実施し、森・川・田・湖のつながりについて考えた。琵琶湖の学習では、刺し網漁やえり漁の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚を使った郷土料理(アメノイオご飯や湖魚の佃煮)を作ってもらい、それを試食して味わった。琵琶湖の食文化財について、講師の方から話を聞いたり、味わったりする中で、価値を実感することができた。

【農業遺産学習】

6年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。日本農業遺産にも認定された魚のゆりかご水田米の農家さんに出会い、話を聞き、炊き立てのゆりかご水田米を味わうことができた。

また、今年は、琵琶湖真珠の養殖の技術や歴史について学ぶ機会を得た。琵琶湖の淡水真珠の魅力や価値を知り、後の修学旅行では、三重県鳥羽市の海の真珠の養殖を学び、比較することができた。滋賀の農林水産業の魅力を実感し、これらを守っていくためのメッセージの発信に、壁新聞にまとめ、ESD ミュージアムを開催した。



【琵琶湖真珠の技術と歴史を学ぶ】

3 実施に当たっての工夫

ゲスト講師に学校へ来ていただけない場合でも、昨年度は、現場からテレビ会議システムを使った遠隔授業を行ってきた。今年度は、人員が足りないため、事前に録画撮影をお願いして、講師から話を聞くという方法をとった。とりわけ、今年度は、コロナ禍の為、校外学習などで子どもたちが学校から出かけていく機会は限られていた。講師との出会いを通して学ぶ機会をそのような形でとることができて良かった。



【びわ湖の漁師さんから湖魚を学ぶ】

4 成果

本報告では、2事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 事業実施上の課題と今後の工夫や展望

同じ活動でも、子どもの実態に合わせて内容を工夫する余地がある。めあてとつけた力をしっかり意識して取り組みたい。

学んで終わりにならないよう、さらに学習の成果を地域の人々に発信するために、「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」の中で発信していきたい。

学校名	草津市立渋川学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.skc.ed.jp